

平成30年度

ウズベキスタン学術調査隊報告会

文部科学省 平成29年度選定「私立大学研究ブランディング事業」

立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクトについて

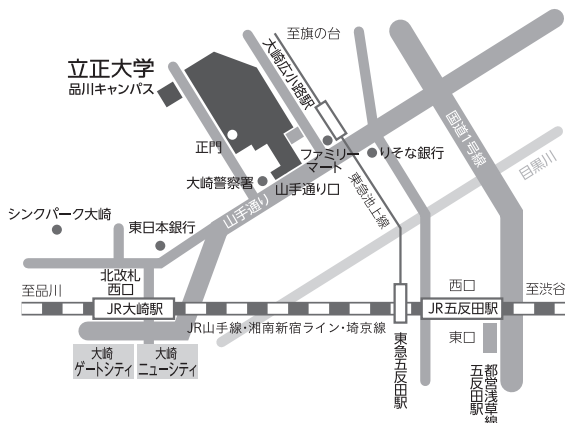
事業の目的

本事業は、ウズベキスタンの研究機関との学術協定に基づき、現地研究者と共同で当地に残る古代仏教遺跡の歴史学的・地理学的調査、地質学的調査、保存修復を行い、日本にまで至るユーラシア大陸における仏教の伝播課程とそれに関わる歴史の一端を明らかにする、本学の特色を生かした学際的な研究事業です。本事業に関わる提案は、2015年に日本の首相とウズベキスタン大統領による共同声明に盛り込まれており、当地においても継続的支援が望まれています。本学は研究成果を内外に公表するのみならず、学術・教育交流の面で成果を還元し、両国の交流を促進することを目指しています。

研究内容

- ①ズルマラ仏塔の修復・保存に向けた歴史学・考古学・保存科学・地理学の諸観点からの調査、発掘活動
- ②ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州テルメズ西郊のカラ・テベ仏教伽藍址北丘コンプレックスの発掘と出土遺物の整理調査・保存修復処理
- ③仏塔保存のための恒久的処置に向けたウズベキスタン側各機関との協議にもとづく人的および技術的支援

ウズベキスタンの地は、そのオクサス川に沿う地域は古代にはバクトリアと呼ばれ、シルクロードの重要な中継地でした。インドに起こった仏教も、カラ・テベ遺跡のあるバクトリアの地を通して中国へ伝えられ、さらに朝鮮半島を経由して日本へもたらされました。中国の唐の僧である玄奘（三蔵法師）も、7世紀にバクトリアの地を訪れたことが伝えられています。



立正大学品川キャンパス 9号館9B21教室

JR山手線 大崎駅、五反田駅から徒歩10分
東急池上線 大崎広小路駅から徒歩1分
東急目黒線 不動前駅から徒歩13分

▼Facebook



お問い合わせ | 立正大学 研究推進・地域連携課(担当:小林)
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16 TEL: 03-3492-8152 FAX: 03-3493-9068
E-mail: shien@ris.ac.jp http://www.ris.ac.jp/branding/

報告・講演者略歴

岩本 篤志

調査隊隊員。立正大学文学部准教授。敦煌文献研究を主とした東アジア史、古代中国史を専門とする。主な著書・論文に、「敦煌景教文献と洛陽景教経幢」『唐代史研究』第19号、「カラ・テベ新出文字資料と周辺遺跡—テルメズ・アングル地域を中心に」『立正史学』第119号、『唐代の医薬書と敦煌文献』(角川学芸出版)など。

紺野 英二

調査隊隊員。立正大学文学部特任講師。古墳時代終末期の研究、博物館学をテーマとする。著書に「関東地方における終末期古墳の墳丘企画」『立正史学』第99号、「古墳からみた7世紀の多摩川上流域」『多摩のあゆみ』第137号、「胴張り石室の構造と型式」『文化財の保護』45号、「資料にみる絵馬堂について」『立正大学博物館学芸員課程年報』第20号。2017.4～現職。

加藤 直子

奈良女子大学大学院修士課程修了後、株式会社文化財保存計画協会勤務を経て、奈良女子大学大学院博士後期課程に進学、2011年に博士(学術)。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所国際協力課長、日本学術振興会特別研究員などをを経て現職。専門は建築史・文化財保存研究。

アクマル・ウルマソフ

Akmal Ulmasov /ウズベキスタン国立芸術大学(National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod)にて修士課程修了後、ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所の研究員として在籍、2018年にPh.D.を取得。ウズベキスタン科学アカデミー芸術学研究所研究員として文化遺産の修復を担当するほか、ウズベキスタン国立芸術大学講師を兼務。専門は建築史・文化財保存研究。